

令和元年度第2回交野市図書館協議会 議事録

- 1 日 時： 令和元年9月24日（火）午後3時～4時30分
- 2 場 所： 倉治図書館2階 視聴覚室
- 3 出席者：
 - (1) 委員 木下会長、中嶋副会長、青木委員、有山委員、石倉委員、大湾委員、岸本委員、木村委員、竹田委員、向井委員、盛田委員、山岡委員、山本委員
(欠席： 今堀委員、川村委員)
 - (2) 事務局 平井図書館長、川村課長、福田課長代理、原田係長
 - (3) 傍聴者 なし
- 4 次 第：
 - (1) 開会
 - (2) 交野市立図書館運営方針の策定について
 - (3) その他
 - (4) 閉会
- 5 内容（概略）：
 - (1) 開会
 - (2) 館長挨拶： 日頃は図書館行政に協力いただき感謝している。
台風も近畿にも近づいたが、交野市は何事もなく通過し安堵した。
本日、第2回ということで、図書館アンケートの結果を踏まえ、運営方針（骨子）について色々なご意見をいただきたい。
 - (3) 配布資料確認： 事前配布 「交野市立図書館運営方針（骨子）」
「図書館（室）アンケート結果」
 - (4) 会長挨拶： 非常に興味深いアンケート結果が事前に手元に届いているかと思う。本日は、このアンケート結果あるいは分析から見えてきたことを中心に、色々なご意見をいただきたい。

- (5) 出席状況確認：委員15名中12名出席にて、交野市立図書館条例第4条第6項第1号により会議成立
(1名遅れて入室により計13名出席)
- (6) 交野市立図書館運営方針（骨子）説明
方針策定の目的、これまでの経緯、関連計画との関係、図書館利用の変化、今後の図書館サービスのイメージについて説明
- (7) 図書館（室）アンケート結果概要説明
各設問の回答について単純集計の結果のみ説明
- (8) 図書館（室）アンケート分析結果説明
男女別・年齢別のクロス集計も含めた結果から見られる傾向、考えうる要因について説明
- (9) 質疑応答

会長： クロス集計を行ったり、回答率が高い部分にハイライトが入っていたりと、グラフも大変分かりやすく、分析のためのデータとして提示いただけだと思う。運営方針（骨子）、アンケート結果、分析結果を説明してもらったが、この3点を合わせて意見をいただきたいと思う。

世代別に利用状況や利用ニーズを分析してあり、いろいろなことを感じたのではないか。利用者アンケートではなく、利用していない人も含めた市民対象の図書館アンケートというのは他自治体でもめったに行われていることではない。今回の交野市立図書館の調査というのは、今後の運営方針を組み立てていくうえで非常に貴重な情報となると思う。意見でも、分析結果への質問でもよい。情報量がたくさんあるので、どの部分からでも、気づいたことを挙げてほしい。

副会長： 図書館利用経験の有無がほぼ同数とのアンケート結果。様々なニーズがある中、これまでの図書館職員の誠実な対応への高い評価からも「図書館は人である」と改めて思う。

図書館サービスについて、公共図書館の役割を考えてみた。学校が塾と違うように、我々の税金で「市民をつくる」ことだと思う。赤ん坊からお年寄りまで、自分、家族、周りの人、し

いては地域の人たちも大切な存在と考えられるような、自然や物に対しても同様に感じることをできるような、「この交野が好き」「住んでよかった」と思ってもらえるような「市民をつくる」ことだと考える。それは交野にとって大きな利益・財産となる。そういう人を大勢つくるのが、若い世代を増やすことになる。

これまで子育て支援、学校教育、生涯学習関係部局と図書館とが連携して、(子どもたちの) 考え、感じ、行動するために必要な豊かな言葉の獲得のため、文化、芸術、自然への好奇心や探求心を育てるために読書活動推進計画を策定してやってきたはず。にもかかわらず、運営方針(骨子)の(今後の図書館サービスについての)イメージ図からはそれが全く感じられない。「Wi-Fi」「ライトノベル」「新聞・雑誌」「CD」「自習室」「談話室」の充実は、当然のことながら他の資料、サービスを削らなければ捻出できない。

すぐれた書物は何十年もの間、何万人もの人に読まれ続けてなお、その時代の人にとって価値あるものとして生き続ける財産である。同じように、そういう精神をもらった人の中にも財産として残り、力を貯えてくれるものと信じ、これまで我々は活動してきた。

高齢化は、言い換えれば人生経験豊かな人材が地域に帰ってくるということ。就業年齢がどんどん上がっており、リタイアした後の生活スタイルも変化しているかもしれない。「滞在」目的でなく、スキルアップのための資料検索の場として必要とされることになるのではないか。

また、少子化は一人一人が大切に育てられる可能性が出てきたということ。市も学校再編途中かと思うが、すぐれた学校図書館と連携が強固な人材豊富な図書館を目指すほうが、子どものために、自分たちのために、他市から移り住みたいと思ってもらえるのではないか。

そんなふうに考えられる「人」をふやすことができる図書館を目指してほしい。

来館者数が増え、滞在者数が増えても、来た人たちが何をどう読んだかまでは数字には表れない。最初に言ったように、図書館の丁寧な対応を受けた人は、利用者として残る。

本を借りて家で読むことが減り続けることは、読書する大人

を見ない環境を生み、親子で読書の喜びを分かち合うという環境を失うことに繋がるような気がする。現状に即してないと言われるかもしれないが、そうしたのが我々大人たちである。こうあってほしいということは、言い続けなければならず、それが公共図書館にできることだと考える。図書館員が図書館の仕事ができる図書館にしてほしいと願う。

会 長： 副会長の長年活動している立場からの意見であったが、他にもそれぞれの立場からいかがか。

データはエクセルで蓄積されているので、「こんな分析もあればよいのでは？」というような意見でもよい。

委 員： 面白いと思ったのは、青年の家図書室の利用が多いこと。蔵書規模的には倉治図書館と同規模、少し少ない程度であるにも関わらず、交野の図書館の貸出窓口として青年の家図書室が最も多いのはなぜか。もう少し読み込めばわかるのかもしれないが、アンケートを見る限り半数を占めているので、よく利用される理由、イベント開催等、何か利用者を引き付ける力が青年の家図書室にあるのかと面白く思った。

会 長： 複合施設であること、立地や交通の利便性によるものと分析しているが、他に事務局から追加の説明はあるか。

事務局： 青年の家は本市の中心市街地であり、本庁や農協本店も近い官公庁街でもある。貸室等も行う複合施設で、直接図書館に来る目的がなくても何かのついでに寄るといった利用が多い。図書館としては倉治図書館が中央館的な役割を果たしており、交野市唯一の「図書館」ではあるが、いかんせん不便な立地にあり車もしくはバス利用、それも本数が少ないとなると、やはり青年の家図書室のほうが利用しやすいということになる。

会 長： 交野にお住まいの方は実感していることかと思うが、そういう実態をアンケート結果も反映していると言えると思う。他に何か気づいたことなどないか。

委 員： 1000人を抽出したということだが、「寺南野」「傍示」「森北」地区の回答が0となっている。どういう配当になっているのかわからないが、「寺南野」「傍示」はまだしも「森北」は新しい街にもかかわらず0というのはいかがなものか。

先ほど副会長の話にもあったが、親が子どもに絵本を読んだりというのは大切なことだと思う。この地区では岩船小学校でのよみきかせなど活動もさかんであるため、きちんと割合を調

整して意見を聞いてほしい。

会 長： 「無作為抽出」、「地域の配分」について説明をお願いします。

事務局： おっしゃっている方法は系統抽出に当たるかと思う。今回はあくまでも無作為抽出であり、13歳以上の市民の中から無作為に選んだ中に当然「森北」の方も入っていると思われるが、その方々からは回答をいただけなかったということが、その数字に表れている。送っていないのではなく、送ったけれども回答がなかった結果と捉えていただきたい。

会 長： アンケート方法はいろいろあるが、今回は無作為抽出ということで、一切調整なしということであった。

今回のアンケートは今後の運営方針を作っていくためのアンケートということで、運営方針（骨子）の19頁「第3章」以降をこれから作っていくうえで、「どういう図書館にしていくのか」「交野市立図書館が目指す姿」というのをこのアンケートの結果分析から繋げていくのが目的である。アンケート集計の28頁「どのようになれば図書館を利用したいと思うか」という設問にあるように、利用していない人の意見も含めて整理をしているが、ただ、これだけで運営方針を作るということではない。「顕在化している市民のニーズ」と、顕在化していないけれども、「交野の図書館としてこういうところを目指したい」というように、こちらから打ち立てていくことも含めての運営方針作りだと思う。顕在化しているのは、28頁でいうと「資料の充実」、これはまさに図書館の基本的な機能であり、「閲覧や自習ができる場所」というのは運営方針（骨子）でいうと3番目の「居場所＝場所としての図書館」へのニーズということになるかと思う。また「フリーWi-Fiなどのインターネットサービスの開始」というのも「情報化」ということで同じ3番目の部分に関わってくるのかと思う。ただ、これは顕在化しているアンケート結果であるので、「今後どういう図書館にしていきたいか」という方針作りには、これだけで十分とはいえない。これらも含めたうえで、運営方針（骨子）で「生涯学習の機会等地域の居場所づくり」と大きく整理してある部分に盛り込んだらよいと思うことを今、自由に聞かせてもらえる、次の協議会に繋がる材料になると思う。

副会長からも「これだけでは…」という意見があったが、それは運営方針（骨子）18頁イメージ図の「世代別に整理した

ニーズ」の部分に関連することだと思う。この3つの柱であれば、図書館の基本的、根幹的な役割として「読み継がれる資料の充実」をもっと強調すべきだということだった。

副会長： 利用者を増やすことばかり重視されて、その中身が軽んじられるのが、自分の思いとは違うと感じた。「中身」「質」の問題を大事にしたい。それは、わかる人にはわかる。文庫でも「ここにすればいい本がある」と言ってくれる人がいる。そういう人は「遠い」「不便」に関わらず、「ここに行きたい」と思えば何とかして来てくれる。利用していない人の「こんなふうになればよいのに」は「以前住んでいた市の図書館が素晴らしかった」等、比較できる「よいもの」を知っていればよいが、なければ自分基準になってしまう。高い理想を持った図書館を知ってほしいと思う。

会長： 「賑わいづくり創出」を目的にするような図書館の運営方針には個人的にもしてほしくないと思う。

「資料の充実」についてはサービスの満足度の中でも「窓口の職員対応」に比べると不満度が高かった。まずは図書館の根幹的な機能として「資料の充実」はこの運営方針に欠かすことのできないものだという事は、皆さんにも同意いただけると思う。それ以外にも「このアンケートから見えてきたこと」「回答数値としては大きくないが、こういう意見は拾い上げて尊重すべきではないか」等でもよい。自由に発言をしてほしい。

委員： 倉治図書館の雰囲気はゆったりしていて好きだが、青年の家図書室が近いのでそちらが利用しやすい。倉治図書館のような雰囲気で、青年の家のような便利な立地で、他のこともできる複合施設というのが魅力的だと思う。そのうえで蔵書も充実しているとなおよい。複合施設であるほうが個人的には利用しやすく感じる。将来的に市役所や他施設と一緒にできる可能性云々の話も聞くが、大歓迎という気がする。

事務局： 本庁を立て直す際には中央図書館的な機能をそちらにという話も出ている。図書館整備構想の中でも中央図書館の整備を謳っており、財政的なこともあるが、中心的な図書館が整備されればもっと利用が増えるのではないかと考える。

先ほどの副会長の意見には、人材育成のことも入っているのかと思う。広い知識を持った司書を育成していくということも運営方針の中に入れていかなければならない。ただ、こればか

りは図書館だけで人材を確保していくことは難しい。財政的なこともあり、市長部局の長がどう考えるかにかかってくる。

委員： 他市の図書館利用について、枚方市の図書館利用が多い。枚方市はたくさん図書館があるのでどこを指しているのかわからないが、(立地面等、交野市と比べて)枚方市はどうか。特に中央図書館などは交通の便がよいわけでもなく、複合施設でもないが、そういう問題を抱えているのか、蔵書が多いので問題がないのか。交野市だけでなく各市どういう状況なのか。

会長： 広域利用も行っているが、事務局どうか。

事務局： 枚方市の中央図書館は交通の便はよくないが、蔵書数が比較にならないほど多い。

事務局： 寝屋川市は寝屋川市駅のすぐそばの商業施設の中に1フロア借り切って図書室を構えている。やはり利便性という点で魅力的であると思う。

会長： 交野市以外の図書館利用については「なぜそこへ」というところまでは回答を求めているので定かではないが、利用目的によって違うのかもしれない。府立図書館利用との回答もあつたが、身近な趣味のものやリフレッシュするための本が一番近い図書館で事足りているが、それ以外の豊かな蔵書を求めてということもあるかもしれないが、そこまでは今回のアンケート項目にはない。

副会長の意見にもあつたが、一度その図書館のよさを知れば、遠くても行くということなのかもしれない。

副会長： 職場が近いという可能性もある。

会長： 他にも、図書館の目指す姿として尊重すべきことなど、自由に意見を。

委員： 所管職員であるため、いろいろ考えることはある。副会長が数字だけではないとおっしゃったのもその通りだと思う。図書館法、社会教育法で求められている図書館というのはそもそも何なのかというところは、当然持つておかないといけない部分である。ただ、自由意見を見ていると、利用していない人が持っているイメージというのも、我々は意識していかないといけないと思っている。全く来られていない方にまず来ていただいて、そこで、副会長のおっしゃるような「本来の図書館のよさ」というものをいかに感じていただけるかというところも必要かと思う。委員でありながら、担当の思いで言わせていただ

くと、やはり専門のそれぞれの分野の方のご意見、アンケートの意見を受けた中でのご意見をしっかり方針に反映して、どういう図書館を目指していくのかを考えていかなければならないと思っているので、それぞれの立場からご意見いただければと思う。

副会長： 話題本、CD、雑誌の類を望む声はあると思う。しかしそれらが入っても、決まった予算の中で充実させていくことは至難の業で、結局、すぐに飽きられてしまう。近隣にもっと充実している民間の施設ができたり、カフェができたりすれば、人はそちらへ移ってしまう。まず来てもらわなければとイベントをしても、イベントだけに来てその後本に繋がらない。

遊び場を作って、ライトノベルや漫画を所蔵して…とすれば最初は人が来るかもしれないが、予算の問題でやがて行き詰まることになり、飽きられて、結果的に図書館離れに繋がるのではないかという危惧がある。それなら、そうではない「人をつくる」「子どもを育てる」といったことにお金を使ってほしい。

生涯学習…自分を表現したり、人とつながって、考え、学ぶ…ということ子ども時から順次実行していくような方針を市にしっかり持ってもらって、その中で図書館がきちんと機能していることが理想だと自分の中では思っている。

会 長： 副会長が危惧しているような図書館も全国に散見する。逆にそうではなく、市民の方と共同、共に作り上げて、長い目で読書文化も育て、次の世代に繋がっているという結果を出している図書館もある。

副会長： 共同しよう、一緒にやろうと思ってくれる人を作らなければならない。そのためにも、自分の楽しみだけで終わってしまうと…と危惧をしている。

会 長： 先ほど委員の意見にもあったが、社会教育施設、社会教育法に基づく図書館法であるので、その図書館法に基づく理念というのをきっちりと押さえたうえで、でも市民の方を巻き込んで…というような、大変難しいことではあるが、そういう交野の図書館を目指すことが大事だと思う。

委 員： こういった図書館アンケートというものを初めて目にして、大変興味深く見せてもらった。気になったのは「利用したい図書館」として、想像していたのは「蔵書の充実」「開館時間の延長」ぐらいかと思っていたが、もっとたくさんいろいろな意

見が出ており、「フリーWi-Fi」「閲覧・自習ができる場所」などもあったが、記述式の意見を見ていると、結構な割合で駐車場のスペースのことが書いてあった。

私は交野市民ではないが、一市民として考えた時に、やはりいい図書館があったら行きたい。実際に好きで頻繁に行く図書館があるが、でもやはりそこが立地的に不便であるとかバスや電車を乗り継がないといけないとなると果たしていけるのか…と思う。29頁の表「男女別」に見た時に、女性のほうが、それが子育て世代ばかりとは限らないが、「施設の改修」を望む声が高いことがわかる。

会 長： アクセスや使い勝手といった「ハード面」に対しての意見も大切だということだと思う。

委 員： 副会長の意見に準ずる。

今の駐車場の件も、ゆうゆうセンターのような広い駐車場があれば、とても行きやすいと思う。夫が若い時からずっと青年の家を利用しているが、つい最近までここ（倉治図書館）が交野市立図書館だということを知らなかった。それぐらいの認識であるということなので、アクセスや駐車場の問題は大事なものだと思う。

会 長： 事務局の分析の中でも何度も「PRの必要性」について発言があったので、その辺りは期待するところである。

委 員： おっしゃるようにPRの必要性を感じる。また、公共図書館なので「どの年齢層にも均等に」という本のそろえ方も必要かと思うが、どうしても勤め人は少ない時間しか来れないということもあるので、若年層にある程度シフトしたような本のそろえ方というのも一つあるのかと思う。

委 員： いろんな意見を伺って、やはり立地条件の問題はあるかと思う。中身的には人を育てるような図書館というのはいいい図書館になるだろうと思う。ただ場所的にここというのはなかなか難しい気はする。

委 員： 駐車場ももちろんそうだが、図書館が安易な方向にいつてほしくないという気持ちはある。先ほど人材の話が出たが、市内小中学校では学校図書館を充実させることに取り組んできた。こういう機会なので報告するが、やはり利用数が増えてきた。学校図書館司書が入り、公共図書館とも連携しながら本の借受等する中で、利用が増え、市の図書館への認識も子どもたちの

中で広がってきていることを期待したいと思う。

年代によって利用する方が変わってくるのは致し方ないかと思うが、年齢が高いほど車の利用が多くなるので、歩いていくのはしんどいということにもなってくるかと思う。そこをどう捉えるのかということがあるかと思う。

私などは両親から大切なものは自分でお金を出して買うように言われて育ってきた。読みたい本を必死で買いに行った覚えがある。どうしてもそういう人もいると思う。もっと身近に図書館があるということをどう広めていくか。なかなか人間の意識を変えるのは難しい部分だとは思うが、そこを働きかけるよい方法がないものかと思う。ただ、イベントで人を寄せる方法を一步誤るとただの祭りになってしまうので、それはどうかと思う。副会長から「新刊本・話題本は…」という話があったが、多少は必要かと思うが、そこばかりにシフトするとまずかろうとも思う。そのバランスをどう取っていくかというあたりが一番難しいのではないかという感想をもった。

会 長： 利用の推移を見ても団体貸出ということで学校等への貸出も増えている。委員の発言いただいたことそのものの実態だと思う。

委 員： このデータと同時に最近の動向として感じることだが、「本の入手方法」について、アンケートでは「書店・コンビニ」が7割と多いが、交野は今、書店というものがあまりない。昔あった大きな書店がなくなって、そもそも購入する環境が減っているというのが一つと、私も利用するが、雑誌などはタブレットで読むことができる。「インターネットで購入」というのは二つあって、「インターネットで本そのものを注文して買う」というのと「電子書籍としてインターネットで読んでしまう」というのもある。こういうところを、そもそもの昔からの「読書」と同じように扱ってよいのかという部分は、とても悩ましいところかと思う。

ただ、そういうことも起こってきているのは事実であるので、それも踏まえた中で「図書館らしさ」、「図書館で紙の本を置いておくことの大切さ」ということを考えていく必要がある時代になってきたのではと思っている。

会 長： 情報化への対応ということで、電子書籍も含めて、公共図書館等ではバランスの問題もあるが、積極的に提供していくとい

うことや、いろいろな読書へのアプローチのニーズがあるので、そういう多様なことも踏まえて考えていくべきという意見だったと思う。

いろいろな意見をいただけてよかった。この運営方針作りに向けて、今日皆様方にいただいた意見を事務局のほうで反映していただき、今後進めていただきたいと思います。

以上で予定していた案件は終了だが、他に何かないか。
ないようであれば以上をもって、を終了したいと思います。

(10) 閉会：次回開催は10月下旬もしくは11月初旬を予定